

# 第 5 学 年

読んでね、この本！～登場人物の関わりがおもしろい～（本を読んで推薦する）

男子2名、女子5名 計7名 指導者 原田圭輔

## 【題材観】「なまえつけてよ」

- 主人公「春花」が一頭の子馬の飼い主から、その子馬に「名前、つけてよ」と言われたことから始まる三日間の物語。対人物である勇太は無関心で無愛想であり、互によくはない関係であったが、子馬がもらわれ、子馬の名前がつけられなくなったことから勇太の優しさに触れ、2人の関係に変化が起こる。
- 児童が物語の主人公と同じ年頃であり、主人公と自分を比べて読むことができ、内面の心情や作者の伝えたいことが読み取りやすい。

## 【児童観】

- 文章の内容を素早く理解することができる。登場人物の人物像について、行動や言葉から読み取ることができる。
- 物語のおもしろさや登場人物の変容点を捉えることが難しく、感想も内容が薄い。
- 読書について偏りがあり、どうしておもしろいのか、どこがよかったのかなど、その本のよさについて具体的に書くことが難しい。

## 【この単元のつきたい力】

- 登場人物の関係が分かりやすい複数の作品を読んで、登場人物の相互関係や内面の心情、作者の伝えたいことについて、叙述を基に読む力。
- 友達との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする力。

## 【そのために取り入れる言語活動】

- 重松清作品を読み、自分の好きな作品を見つけ、その作品についての推薦文を書き、交流し合う言語活動。

## 【単元の評価規準】

- 登場人物の相互関係や心情、優れた叙述について自分の考えをまとめている。〔C（エ）〕
- 本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。〔C（オ）〕
- 「推薦文を書く」という目的を持ち、課題図書を比べて読んでいる。〔C（カ）〕
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。〔言語事項 イ（キ）〕

## 児童の課題克服の手立て

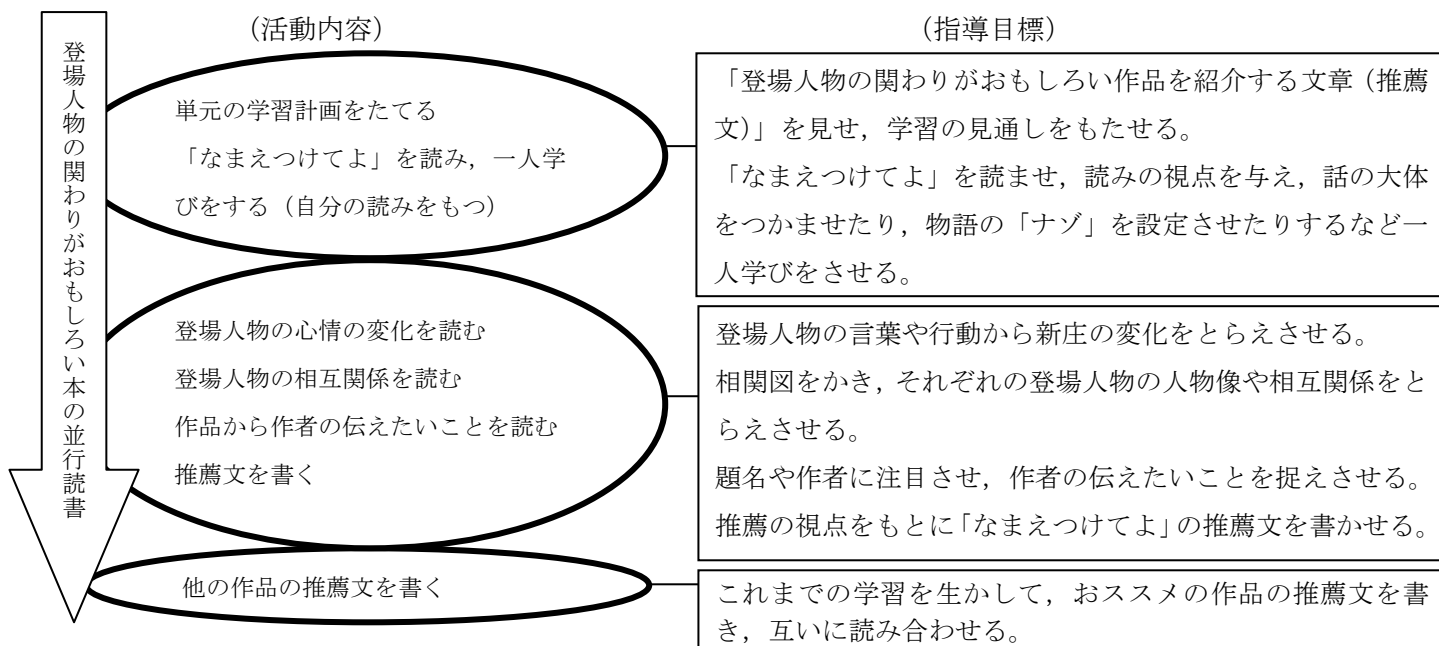
### 【指導観】

- 指導者のモデル作品を見せ、単元のゴールをつかませる。また、児童にとって親しみやすい同年代の主人公が出てくる本を教室に置き、休憩時間や授業時間にすぐに並行読書できるようにする。どの作品を読んだか分かるチェックシートを近くに置いておく。
- 推薦の視点を与え、その視点をもとに400字程度で推薦文を書かせる。推薦文を読み合う活動を仕組み、自分の読みや考えを深めたり、広げたりさせる。

### 想像を広げながら読むための手立て

- 物語の「ナゾ」を設定し、それらを解決していく中で読みを深めさせる。
- 登場人物の行動や言葉に着目させ、人物の相互関係や心情の変化を捉えさせる。
- 題名に着目させたり、作者に注目させたりすることで作者の伝えたいことを考えさせる。

【単元構成図】



【指導計画】(全8時間)

次	学習内容(時数)	評 価				
		関	読	言	評価規準	評価方法
一	○「推薦文」に興味をもち、学習課題を設定し、学習の計画をたてる。(1) ○教材文を読み、一人学びをする。(1)	◎	○		○課題図書に興味を持ち、進んで読書をしたりしている。 [C(カ)] ○読みの視点、登場人物の行動や言葉に着目して話の大体をつかんでいる。物語の「ナゾ」を見つけている。	行動観察(発言・行動)  ノート書き込み
二	○推薦の視点をもとに「なまえつけてよ」を読む。(3) ・登場人物の心情の変化を読む。 ・登場人物の相互関係を読む。(本時4/8) ・作者の伝えたいことを読む。 ○「なまえつけてよ」の推薦文を書く。(1)		◎	○	○登場人物の相互関係や心情、優れた叙述について自分の考えをまとめている。 [C(エ)] ○本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [C(オ)] ○文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 [言語事項イ(キ)]	ノート  推薦文
三	○おススメ作品の推薦文を書く。(1) ○推薦文を互いに読み合う。(1)	○	◎		○「推薦文を書く」という目的を持ち、複数の作品を選んで比べて読んでいる。 [C(カ)] ○本を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [C(オ)]	推薦文  感想の付箋

【本時の目標】

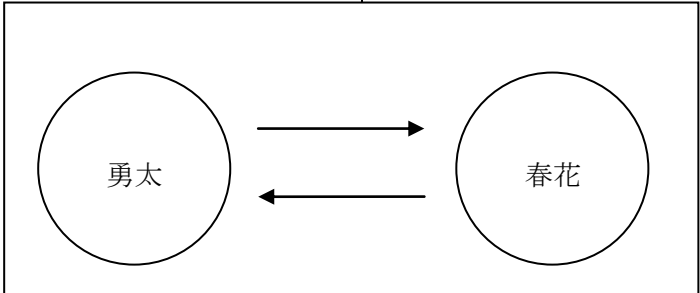
○春花と勇太の行動や言葉、心情の変化をもとに人物関係図をつくることを通して、春花と勇太の関係の変化を文章にまとめるができる。

<言語活動>

- ・登場人物の行動や言葉、心情の変化をもとに、はじめとおわりの登場人物関係図をつくる。
- ・関係図をもとに、登場人物の関係の変化を文章にまとめる。

【 準備物 】挿絵、登場人物の絵

【本時の学習指導過程】

教師の指導・支援◎ 評価とその方法○	教師の発問・指示 予想される児童の反応	学習活動
◎前時の学習内容を掲示しておく。	登場人物それぞれの心情の変化を思い出しましょう。	1. 前時の学習を確認する。  2. 本時のめあてを確認する。
登場人物関係図をつくり、登場人物の関係の変化を考えよう。		
◎読み取りに必要な個所を考えさせ、そこを一人読みさせる。	はじめとおわりの登場人物関係図をノートにつくりましょう。	3. 一人読みをする。  4. 登場人物関係図をノートにまとめる。  じっくり考えさせる
◎登場人物の行動や言葉、心情の変化をもとに、登場人物相互の関係を考えさせる。  しっかり教える		
◎はじめとおわりの人物関係図がつくれたら、春花と勇太の人物像についてもまとめる。		

◎発表を聞きながらノートにまとめさせる。

◎それぞれの考えが適切かどうかよく吟味させる。

はじめの登場人物の関係をまとめましょう。

[児童の反応例]

○春花→勇太

- ・どう関わったらよいかわからない。
- ・何を話したらよいかわからない。
- ・無愛想 ・変な子
- ・何も言わない態度が嫌だ。

○春花←勇太

- ・どうしよう。・はずかしい。
- ・何を話そう。

おわりの登場人物の関係をまとめましょう。

[児童の反応例]

○春花→勇太

- ・優しいところもあるんだ。
- ・何を話したらよいかわからない。
- ・「ありがとう」と言いたいけど。

○春花←勇太

- ・名前をつけることができなくて、かわいそうだ。
- ・何て声をかけたらよいかわからない。・はずかしい。

どうして、はじめとおわりで春花と勇太の関係が変わったのでしょうか。

- ・勇太が紙で折った小さな馬を春花に渡したから。
- ・「なまえつけてよ」と馬の後ろに書いてあったから。
- ・さりげない優しさを見せたから。
- ・校庭でボールを追いかけている勇太の姿を見たから。

5. それぞれの考えを発表し、質問や意見を言う。

はっきり表現させる

- ・学習リーダーが黒板にまとめる。
- ・発表者は文章を根拠に関係について考えを話す。
- ・考えについて吟味をする。

◎登場人物関係図をつくることのよさについてまとめる。

人物関係図をつくることで、それぞれの登場人物の見方や思いを理解することができ、はじめとおわりの関係図をつくることで関係の変化も理解することができる。

6. 登場人物の関係が変わったきっかけや出来事をとらえる。

<p>◎題名は作品の重要な言葉になることが多いことに気付かせる。</p> <p>(例) お手紙 (もの) 初雪の降る日 (いつ) スイミー (人物) わらぐつの中の神様 (作者の意図)</p>	<p>題名が「なまえつけてよ」ですが、牧場のおばさんが言った「名前、つけてよ」と勇太が作った紙の馬に書いてあった「なまえつけてよ」はそれぞれ、春花にとってどんなものと言えますか。</p> <p>○「名前、つけてよ」 ・うきうき ・楽しみ</p> <p>○「なまえつけてよ」 ・優しさ ・思いやり</p>	<p>7. 題名の意味について考える。</p>
<p>○登場人物相互の関係について、はじめとおわりの関係の違いを理解し、それを文章でまとめている。(ノート)</p> <p>◎ノートに本時の学習のふりかえりを書かせる。</p>	<p>春花と勇太の関係の変化について文章でまとめましょう。</p> <p>はじめ、春花と勇太は…だった。しかし、～によって、さいごには、 - - -。</p> <p>次の時間は、作者がこの作品を通して伝えたかったことについて考えましょう。</p>	<p>8. まとめをノートに書く。 (150字～200字でまとめる)</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p style="text-align: center;">じっくり考えさせる</p> <p>9. ふりかえりをノートに書く。</p> <p>10. 次時の学習について知る。</p>

【板書計画】

